

㊦ (小計 60点)

問一 (12点) 客が増えて対応するのは大変だが、自分の作った饅頭をお金を払って買ってくれ、おいしいと言ってくれることにうれしさを感じるということ。

問二 (14点) 道路使用許可を得ずに菓子を販売したが、ワコと浅野は老舗の名店の者なので、警察官に見逃してもらえたということ。

問三 (18点) ツルさんは小原の嘘に気づかないふりをしてワコに饅頭を売らせ、理不尽な扱いを受けても自分で責任をとろうと熱心に仕事に向き合うワコの姿を小原に見せて、修業に集中せず甘えが抜けない小原を反省させようとしたということ。

問四 (16点) 実家では兄と比べられ居場所がないことからすねていたが、周囲の人達のお菓子への情熱や自分への期待に触れ、饅頭の汚れを無意識に払っていたことをワコに気づかされて、実はお菓子里に愛着があると自覚した。

㊧ (小計 30点)

問一 (12点) 仲間がたくさんいれば、自分の存在を隠すことが出来るので、発言に責任を負わなくてもすむから。

問二 (18点) 全てを自分で決め責任を持って行動することになって、視野が開け、世界の多面性や多層性に気づくようになると考えている。

㊨ (小計 10点)

- (2点×5)
- | | |
|----------|--------|
| (1) 起源 | (2) 穀倉 |
| (3) 録音 | (4) 収納 |
| (5) 機会均等 | |

【出典】

- ㊦ 上野歩『お菓子の船』
㊧ 森達也『集団に流されず個人として生きるには』